令和6年度第2回鴨川市国民健康保険運営協議会会議録

- 1 日 時 令和6年12月23日(月)午後1時から午後4時10分まで
- 2 場 所 鴨川市総合保健福祉会館(2階コミュニティホール)
- 3 出席者
 - (1) 委員
樋口洋子委員、前田恵美子委員、酒井龍一委員、石井薫委員、黒野秀樹委員、
小橋孝介委員、羽田幸弘委員
 - (2) 鴨川市国民健康保険条例施行規則第14条の規定により出席した者
長谷川孝夫市長
市民福祉部 鈴木克己部長
健康推進課 角田守課長
市民生活課 山口紀子課長、半田直美係長
企画総務部
税務課 安田勉課長、小東慶旭係長、渡辺奈津紀副主査
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 議件
高額療養費等資金貸付基金について
令和7年度国民健康保険特別会計予算について
 - (4) 閉会
- 6 会議内容
別紙のとおり
- 7 会議の傍聴者
なし

1 開 会

(司 会)

皆様、こんにちは。本日進行を務めさせていただきます市民生活課の半田と申します。どうぞよろしく申し上げます。

(資料確認)

2 議会の成立 (出席者の確認)

(司 会)

ただ今より、令和6年度第2回鴨川市国民健康保険運営協議会を開催させていただきます。委員全員の出席がございましたので、鴨川市国民健康保険条例施行規則第8条の規定により、本協議会は成立いたしました。

また、本運営協議会の会議につきましては、鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領に基づきまして、公開とさせていただきます。会議録作成のため会議を録音させていただきますのでご了承ください。

なお、本日の傍聴の申し込みはございません。それでは、次第により進めさせていただきます。

まず始めに、鴨川市長よりご挨拶を申し上げます。

3 市長挨拶

皆さん、こんにちは。市長の長谷川でございます。

委員の皆様には、公私共お忙しい中、令和6年度第2回鴨川市国民健康保険運営協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

日頃から国民健康保険事業をはじめ、市政全般にわたり多大なるご支援とご協力を賜り、重ねて感謝申し上げます。

さて、いよいよ本年12月から、健康保険証の利用登録をしたマイナンバーカード、いわゆるマイナ保険証を基本とする仕組みへと移行したところでございます。

本市においては、10月末現在で、23.12%で、全国平均19.55%より3.5ポイント上回っております。

マイナ保険証の全国の利用率は、移行後の12月8日までで、28.29%と先月より9.77ポイント上昇したとの報道がありました。

マイナ保険証のさらなる利用促進に向け、また、全ての人々が安心して保険診療を受けられる環境整備に向けて、関係者が一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。

本日の議件は、議件1として、高額療養費等資金貸付基金について、議件2として、令和7年度国民健康保険特別会計予算についてとなっております。

議件2につきましては、国民健康保険特別会計の健全運営を図る必要がありますことから、保険税の改正をいたしたく、委員皆様にご審議を賜りたいと存じます。

委員皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、私の挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。

(司 会)

次に、諮問書の交付を行います。

長谷川市長より酒井会長へ諮問書を交付いたします。

(諮問書の交付)

ここで、市長は所用のため退席いたします。

それでは、皆様に諮問書の写しを配付いたします。

(諮問書の写しを配付)

(司 会)

それでは議件に入らせていただきます。なお、議長につきましては、鴨川市国民健康保険条例施行規則第6条の規定によりまして、会長がなるということになっておりますので、酒井会長に議長をお願いいたします。

(議 長)

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。これより議件に入らせていただきます。ただいま市長より交付のあった諮問に対する答申についてご協議をお願いいたします。

鴨川市高額療養費等資金貸付基金について

議件 1 高額療養費等資金貸付基金について事務局よりご説明させていただきます。市民生活課、山口課長お願いします。

(山口市民生活課長の説明)

(議長)

ありがとうございました。ただいま山口課長より高額療養費等資金貸付基金の廃止に至る経緯のご説明がございました。また、皆様のご理解がまだ得られていないかもわかりませんが、一旦お読みいただいてご意見ご質問等ありましたら伺いたいのですが、どうでしょうか。羽田委員お願いします。

(羽田委員)

実績がないということで、長い期間実績がないのは理解できるのですが、可能性としては書いてないので、あくまで実績のお話なので、そのあたりはどうですか。

(山口課長)

今後マイナ保険証に移行する関係で、今まで直接支払い制度でやっておりますので、今後もこのような貸付制度がなくても借りに来るということはないというふうに判断しております。

(羽田委員)

マイナ保険制度自体はですね、まだ 100%にはなっていない中で、可能性が皆無だということであれば全然問題ないんですけども、そのあたりはどうでしょうか。

(山口課長)

例えば資格確認証に移行した場合も、鴨川市の資格確認証についてはサイズが今までの保険証と同じサイズなので、そこに限度額認定証の情報を入れることができません。なので別に限度額認定証をこれまでと同様に出すようにしております。あらかじめ病院にかかる時、入院の時に限度額認定証について窓口から照会されるということですので、市も限度額認定証を出させていただきます。わざわざ高額なお金をご自分で負担してということはないと考えられますので、貸し付けることもないというように判断した結果でございます。

(羽田委員)

ちょっと微妙な感じかなと思いますが、了解しました。

(議長)

その他またご不明な点ありましたら。前田委員いかがですか。

(前田委員)

高額療養費等貸付基金、創設された時この原資っていうのは、国民健康保険特別会計から全額出ていますか。19円はもしかしたら運用益かなと思うんですが、そこを確認させていただきたい。

(山口課長)

この基金は、平成17年2月11日に合併した時に創設されました。その前は、基金は鴨川市にも天津小湊町にもありませんでしたが、天津小湊町は国保会計の中で貸付をしておりました。平成16年度の決算書と予算書を確認しましたところ、国保会計の方から高額療養費等貸付基金積立金ということで2千万円がございました。その年は150万円位の調定が立っておりまして、貸付も200万円位の貸付がございました。その19円というのは運用した時のお金になっています。

(前田委員)

わかりました。もう1点なんですけど、基金廃止したものは特会を通さずにいきなり国保財政調整基金繰り入れですか。そのへんがよくわからない。

(山口課長)

これは財政課との協議では、財政調整基金に繰り入れるということでしかしていなかったもので、こちらの特会に入れずして調整基金に直接というふうに考えていましたが、特会を通して積立をする手順につきましては詳しいところを財政課と詰めていきたいと存じます。

(前田委員)

わかりました。

(議長)

石井委員。

(石井委員)

協会健保なんかも74歳までの方が高齢受給者っていう形なのですが、入院とかですと限度額認定証が使えるんですね。外来で薬局分とか外来が何カ所かにわたるような場合、1万8千円位負担しなければならない形なんです。それだと収入がない方ですと一時的な立て替えは厳しいのかな、それで高額療養費で戻ってくる分で貸付をご利用いただく方も収入がある方が減るということだったので、そんなにたくさん色々な病院受診している方は少ないかもしれないんですけど、ゼロではないのかなという疑問が生じました。

(山口課長)

ありがとうございます。ゼロではないとは考えられますが、限度額認定証につきましては、今後も発行するという事になっております。

(石井委員)

限度額認定証を使えない。外来が複数カ所ある場合には使えないので病院が何カ所もある方ですと、それぞれ負担が。高額療養費で払い戻してるという加入者の方が、協会健保では結構いらっしゃるんですね。どうしてもそこが限度額認定証で行き届いていない部分になりますので。そうすると収入がない方が今後増えるということであれば、もしかするとそれをただ単に知らないという加入者の方が多いというだけで、本当は利用したい方もいらっしゃるでしょうし、収入がない方が増えればそういうところも増えてくるのではないかなという疑問が。

(山口課長)

増えてくるかはわかりませんが、今の状況でもそういう方はいらっしゃるのは確かでございます。

(小橋委員)

今のお話を聞いて、私たちの外来でもこういった仕組みを知らずに、やはりお金がかかるので、本当は3カ月分か2カ月分処方して欲しいんだけど、お金がないから1カ月分にして下さいとかですね、薬剤費が高くてとかですね、そうおっしゃる方いらっしゃったりとか。実際に窓口でのお金が払えない方っていうケースが、これから増えてくるのかな

というのは実感として感じているところなんですけど、そのあたり周知というのはどのような形でされているのですか。

(半田係長)

1 医療機関での限度額認定証の活用自体は、どの医療機関でも基本的には外来でも入院でもできるように限度額認定証が出ております。

(小橋委員)

複数医療機関ですよ。結構亀田病院とか市内の医療機関とかで、バラバラで診ている患者さん結構おります。専門科は亀田病院とかそういう形でいらっしゃるの事実かなと思うので。

(半田係長)

お出しできる方には、うちの方から今まで保険証を更新する時に出せますので申請してくださいねということで、勧奨はうちの方からもさせていただいてチラシなども入れて周知は図ってはいるんですけども、実際に皆さん病院に行く時になって初めて申請をする方が多いです。

(小橋委員)

基金についての周知っていうのはどのようにされてたんですか。今の高額療養費等貸付基金というその今の基金に関して。すみません恥ずかしながら存じ上げなかったんですけど。

(山口課長)

この基金の周知はここ数年はしておりません。入院などでお金がかかる時は、限度額認定証の申請をしてくださいといった周知はホームページ等でしています。病院にかかって、高額で支払ができないと相談に来られた際には、貸付基金制度のお知らせをいたします。もちろんマイナ保険証を使っただけであればということもありますので、そもそもマイナ保険証を使っただけであればという周知につきましては、今回の保険証を出した時から、使ってくださいというような形で周知をさせていただいております。

(小橋委員)

マイナ保険証については、当院でもかなり勧めております。

(議長)

石井委員をお願いします。

(石井委員)

70歳以上の方ですと病院が10カ所とかかかっている方で、給料にもよりますけれども、外来で1万8千円を超えた場合に協会健保なんかでは勧奨しているんですね。その時に初めて、1カ月で外来でこの金額を超えたら高額療養費に該当するんだ。そこは限度額認定証が使えない部分になるので、限度額の周知というよりは、そういった形で本当は3万いくらか負担していたけど、1万8千円で済むんだ。収入がなくなるので、それがもし貸付で借りれるのであれば借りたい、知らなくて手続きしていなかったとか、そういった貸付を知らなかった方が、収入がなくなるのでそういう方については、そんなに病院10カ所もかかる人はあまりいないのかもしれないし、外来と薬局でそれぞれ負担額が決まっているのですが、病院の数が重なると一時的な負担が増えるので、そういう方たちは知っていれば貸付利用したいかなという人もいるのではないかと思ったんですね。限度額が使えないというようになるかと思うので。そういった方は市の方で高額療養費に該当する方は請求できますよとかっていう案内はされているような形ですか。

(半田係長)

レセプトが届きまして高額療養費に該当するとわかった方に関しては、こちらからいくら返せますよ、ついでに申請してくださいということで申請書をお送りさせていただいてます。その時に毎月確認しますが、実際、今の段階で10軒とかっていう世帯は1世帯いるかどうかくらいの、そんなに多くないです。

(石井委員)

その方たちは、もし払えないという方は市役所に相談に来るってというような形ですか。

(半田係長)

高額療養費に関しては窓口で支払えないという相談は、今のところ受けておりません。実際の医療費そのものとかですとか、税額そのものが払えないという方はいらっしゃるんですけど、高額療養費の部分に関して払えないというご相談は、ここ最近では窓口で受けておりません。

(石井委員)

ありがとうございました。

(議長)

今の件については、石井さんはそれで納得はしていないんですね。

(石井委員)

いえ、そもそも対象が少ないということであれば、貸付が必要だっていう方もいらっしゃるというような今の状況ですので、協会健保は規模が大きいので、そういった方に勧奨して高額療養費を貰えると知らなかったお客様が大変多いので、今後こういうのを知ったら貸付したいという方がいらっしゃるのかなと思ったんですけど、件数がほとんどないということですので、大丈夫です。失礼いたしました。

(議長)

黒野委員いかがですか。今の意見も含めまして。

(黒野委員)

この制度自体、患者さんの負担を軽減するうえで、私はかなりよい制度だと思っているのです。ただ患者さん自体が恐らく、今まで需要がないということで、申請の仕方がわからないと思うのですが。違いますか。

(山口課長)

これまで実際に、この基金を利用していた人が、制度が変わったためにこれを利用しなくて済んでいると考えられます。新たにこの基金があるから借りたいという方は、この限度額認定証が普及されたためにいらっしゃるかと推測されます。

相談がございましたら、申請につきましては、窓口で行うこととしています。

(議長)

ただいま皆様から多数のご意見いただきました。高額療養費等資金貸付基金については、諮問のとおり皆様からのご賛同を得るということによろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言するものあり)

ありがとうございます。それでは諮問のとおり異議ない旨、答申することにいたします。

令和7年度国民健康保険特別会計予算について

続きまして議件2、令和7年度国民健康保険特別会計予算についてご協議をお願いいたします。諮問事項につきましては、令和7年度鴨川市国民健康保険税の税率改正案についてでございます。事務局よりご説明願います。市民生活課、山口課長。

(山口市民生活課長の説明)

(議長)

次に税率改正につきまして、安田税務課長より補足説明をお願い致します。

(安田税務課長の説明)

(議長)

ありがとうございました。先程の議件1の貸付金廃止につきましても、皆様から色々な意見いただきましたので、この税率改正について皆様からの自由な意見をお伺いしたいと思います。

(羽田委員)

当初考えていた、もう少し今の税率でなんとかなるのかなと考えていたものが、ある意味急に上げなければいけないというような現状になったと、私は聞いていたわけなんですけども、これの原因は例えばコロナが絡んでいるとかさまざまな要因があるのかなと思っているんですけども、その辺りの分析をきちんとしておかないと今後も医療が延びたから、簡単にうちのは延びないよといっても千葉県中の医療が延びればそういったことが起きるということで、さっきの考え方でいくと急に今回は税率をもっと上げないと集まらないよね。だから税率をあげなさい。その次の年は医療費が全体に圧縮されたから軽減されましよう、そんな話が起きるのかなと思って聞いたのですが。とりあえず今回上げたらまた次上げますよ、また次上げますよということが、どこまでいくのかなと不安になるというようなことで、国保財政も厳しくなっていく、所得の高い人がどんどん居なくなっていく、そんなことの中で見込み誤りが結果として起こっているというように思えるので、今後ど

のように動いていくのか、県がどのようにやっているのか、予想がつかなかったこと、予想が難しかったこと、それは重々わかった上でどんなふうを考えていらっしゃるのかお聞きしたいなと思いました。お願いします。

(山口課長)

それでは見込みの方から申し上げます。平成30年から県との共同運営になったため、全体的に鴨川市の税収というのは千葉県が示した納付金額より高いものでした。29年には財政調整基金が100万円しかなかった状況を見ますと、千葉県と共同運営になるという見込みがあったため、26年に税率を上げてからも、ギリギリの状況で29年度まで運営されたと推測できます。

30年度に、千葉県と共同運営になったことで納付金が示され、医療費は千葉県が責任を持つことになったので、そこから鴨川市の国保財政は、安定し始めたと分析しています。納付金の額よりも税収が多く、そのために30年から令和4年度までは、財政調整基金が積み立てられておりました。

この納付金ですが、その前の年の医療費等3年分を平均して算出されるものです。平成29年から令和2年までは10億円を超えていました。ですが令和2年と3年は、コロナ禍に病院に行くのを控えたことがありましたから、令和3年と4年につきましては、それぞれ9億8千万円、9億7千万円と低くなっていました。コロナ禍後、令和4年に、病院にたくさんかかるようになったということと、手術等が増えてきたということで、令和5年度には、納付金が10億円台になりました。

まず、その見誤りがあったと思いますが、5年度の予算編成の時はまだ、千葉県は納付金を納めるための標準保険料率を、医療費分は、6.4%、ただし均等割とか後期については2.6%と高い、介護は2.2%と、示されたため、財政調整基金を使って、税率を上げずおりました。

こうした中で、令和6年度の納付金は下がりましたが、税率は医療費分が7.67%、後期分は3.1%、介護分については2.48%の標準保険料率が示されました。現行税率と標準税率の差の半分の税率で推計いたしましたが、令和7年度の標準保険料率よりも遙かに高い税率になってしまいます。ここで、令和4年度までに積み立てた財政調整基金があると1億4千万円あったため、令和6年度についても税率を上げませんでした。それは、令和6年度の予算編成時に、令和7年度から納付金に反映する医療費水準をゼロに向けた取組

が始まりますことから、鴨川市の場合は納付金が下がりまして、それに伴って税率も低くなるだろうと見込んでおりました。結果的に令和7年度は、3千万円ほど足りなくなってしまったというのが現実です。

千葉県の示す収納率も難しく、93%、94%を毎年収納するというのが厳しくて、予算については92%を見込んでいます。103万円の壁が協議されている中、税金が少なくなってしまうのではないかとということもございます。今回、税率を上げさせていただいて、今年上げたら来年は下げるとか、次上げてとか行ったり来たりするのではなく、数年は同じでいきたいなというようには考えています。まだ先ではありますが、今後保険料が統一されましたならば、千葉県が示した税率で納めるようになると考えられます。鴨川市の国保会計が納付金ベースで統一するまでは、標準保険料率と収納率で実際に税務課と協議してまいりますので、現段階では、決めてはおりません。

(羽田委員)

決めてないのはしょうがない。現段階ではと思っているんですけども。原則的な考え方を決めておかないとまずいなという印象です。3年に1回位見直ししますよと、市民の皆さんに示さないと今の説明だけだと、下がったり上がったりするのというような印象を与えるので、3年に1回位の見直し、ただし下がることは難しいですよ。今後の動勢からいってというようなね、今からある程度心の準備ができるような話をしておかないと、混乱するのかなって思ってます。市民の皆さん目線で見たらすごく大変な改正が行われたのだなという印象になって、個人的には予算ベースの話をしている分にはいいんですけども、私、昔、税務課にもいたことがあるので、もともとこういった予算ベースのことを決める担当課とお金を集める税務課は、第一線で結局お金集めながら何でこんな高くなったのだよって言われるのは税務課なので。収納率が92%、さっき県が示している収納率がもう少し高かったような気がしないんですけども。そういったような要望を県から受けながら、概ね県の示す税率で今後やっていかなければならなくなるというようなお話なので、非常に税務課の立場からすると厳しいなと。これわかりやすい説明できますかね、私さっきの山口課長のお話とかだいたい複雑で難しいなと思って聞いていたんですけども、市民からお金集めに行って、こんな上がったら払えるわけじゃないじゃないと言われるのは、たぶん税務課なんで。その辺りって、わかりやすい説明とか今後の広報の仕方ってよっぽど市民生活課と協力してやっていかないと難しい。これはあくまでこれが通ってしまうだろうと思っている私がいるんですよ。なぜかということ、最終的にこれをしなければいけない前提があ

るだなどとお話を聞いていたので。そうすると市民の方にどう説明するかっていうことが、非常に難しいなと思ってですね、何かお考えがあったら聞いておきたいなと思って。すみません税務課長。

(税務課長)

今羽田委員のおっしゃるとおりです。

今回の試算している間で確認したのですが、基本的には徴収率は下がってないです。調定額は極端に下がっています。これはなにかといいますと、社会保険の加入枠の拡大とか、団塊の世代の後期高齢者への移行とか、その極端な数値が出てきて、課税する人、調定額の方が極端に下がっています。調定額は下がっているのですが徴収率は今 94.25% まではキープしていますので徴収率が下がったことが原因ではなくて、基本的には時代の流れによって調定額がどんどん下がっているものに対して、一人あたりの医療費がどんどん増えています。

羽田委員がおっしゃったように、今後の見通しなんですけど、正直言って今回上げさせてもらったのは国民健康保険の会計の方を維持するために、千葉県の標準税額まで税率を上げさせていただきました。基本的には 8% から 11% 上がる世帯が出てきます。こちらでお示したとおり、極端な話 6 人の所得 640 万円の世帯では、もともと 90 万 9,600 円だった現行の保険税が、99 万 7,900 円まで上がります。差額が 8 万 8,300 円、約 10% 増額します。こちらは極端なんですけど、これ以上になってくると先程後半に説明した課税限度額に入ってくるので、ある一定のところより上がることはないですが、そこに入ってしまうとずっと同じになってしまう。そういう部分も出てきたりしますので、かなり難しい部分になってきます。それと市民生活課長からお話があったとおり、今年 103 万円の壁がありますので、所得の取り方とかそういうのが全然変わってきます。今回私どもの方でどの位増えるかという試算をさせてもらった時に、国民健康保険税この額でいくと、約 5,700 万円の増額を見込んでますというようなお話をしたのですが、これから国で決める所得の取り方によっては、これが全く違う数字になってくる可能性がありますので、これから先の見通しというのは正直今年はかなり難しいと思っています。ただ先程羽田委員がおっしゃったように、今も鴨川市 10 年間ずっと据え置きにしてきたのですが、これからの保険税の見方につきましては、毎年検討が必要になってくるかと思います。今回改正したからこの額で大丈夫とか、下がるかもしれないとか上がるかもしれないというのは、

容易にはお話できることではないのですが、ただ3年に1度、4年に1度の検討ではなくて、毎年検討していかなければいけないと思います。検討の中で例えば今年は据え置いてもよいとか、もう1年待てるなっていう判断はその都度していかなければいけないと思っております。基本的に南房総市や館山市に関しては5年に改定して、6年にも改定しています。毎年改定していますので、そういうのも見据えると鴨川市でも毎年検討が必要かなと思います。

(羽田委員)

私、さっき何年かに1回のスパンと言いましたけど、毎年やることを前提に考えざるを得ないと、その代わり余計な上げ方をしない、余計な下げ方もしない。それを原則的に今回できる限り市民の皆さんにもわかるように打ち出す必要が、そうであれば。ということで、財政調整基金みたいなものがとりあえずなくなる、底をついたということで、自己財源の余計なお金も持ってないよという状態になりますので、そしたらもう県のいう税率でやるしかないよねと。先程収納率もクリアしていますよというお話だったんですけども。ちょっとだけまだ私、分かっていないんですけど、もしこれが資金ショートする、県がいうように税率で、県がいうようにお金を集めたのにもかかわらず、資金がショートするということが起きた場合にどうなるのかなと。あと期間的なショートの確率があるのかなと。納付しなければいけないタイミングで資金がショートする、税金が入ってくるタイミングと合わなければ資金がショートする。その時にどうなってしまうのだろうかというの、わからないので説明をお願いします。

(山口課長)

はい。まず、資金繰りのところですが、1つは、財政調整基金は鴨川市にあれば、それを繰入れていくこと。もう1つは、県と鴨川市が共同保険者になった時、平成30年から県が設置した財政安定化基金の借り入れです。県内の市町村が県が示した標準税率税率で収納率が悪かった場合、県の見込みが悪かったというのがありますし、例えば何かの災害で減少してしまう可能性もありますので、それは県の財政安定化基金を利用できることになっています。それを利用場合は、3年間は無利子なのです。それなりの計算方式がありまして、その金額はお借りできるとなっています。

それが鴨川市は税率を上げないで、医療費分は7%のまま、均等割もそのままとなりま
すと納付金分を集められるわけがありません。県が納付金と標準保険料率、収納率を示し、
それでも税収が集まらなかったという場合は貸すことができますということになっていま
す。

次に期間的な資金のやりくりとして、例えば、医療費が3月とか2月になっていきなり
上がってしまった。その医療費分は千葉県からの支出金として入ってくるのですが、3月
の支払いに、千葉県から入ってくるのが何らかの原因で4月になってしまうという場合、
そういった可能性があります。

(前田委員)

市民目線から考えると今、色々な物が値上がっている中で痛いなと思いますけれども、
税務課長から説明を聞いて、現状もよくわかりましたし国保の財政調整基金を取り崩す以
外に他に税収を上げるしか手だてがないとすれば、仕方がないのかなと理解しました。ただ
市民のことを考えると、なかなかそうですねとは言いづらい部分があります。

(議長)

ただいま前田委員、羽田委員からお話がありましたが、先程市民生活課長から税率のア
ップの要因として各年度の金額的な裏付けがあったのですが、それよりも市民目線から考
えた場合の裏付け、税収納率はアップしているが調定が実は下がっている。あるいは加入
者世帯、加入者人数、後期高齢者への団塊世代の移行によって人数が大幅に下がった、そ
ういった具体的なものを打ち出していく必要があるのではないかという意見がありました。
それについては、さらにバックアップできることでしょうか。

(税務課長)

今ご指摘いただきましたように、口頭での説明になってしまったのですが、本来であれ
ばどのくらいという数字を示してお話するべきだと思います。先程申し上げた、保険税の
上がっているものと税率が普通よりも低いんだよというものでよろしければ、今急いでコ
ピーしてお出しします。一人あたりの医療費と保険料について表になっていますので、そ
ちらをお示しさせていただきたいと思います。

(羽田委員)

逆の言い方をしますと、鴨川市はたくさんの医療を皆さん格安で受けられるというお話なのでよね。

(山口課長)

11月中旬に県からの納付金の概算値がでたばかりですから、現在納付金に対する税率を試算しているところです。館山市は今年も上げると昨年決定されているそうですが、館山市の場合は医療費水準が県全体で中程度のため、少しずつですが毎年上がっていくと考えられます。今後5年間で、医療費水準が低い市町村は上がり、高い市町村は下がる傾向があるからです。

(黒野委員)

市民の意識の中にその考え方が入ってくれるか、一人あたりの医療費の順位は確かにかなり聞こえは良いのですが、ただ単に人口が少ない。高齢化率が高い、さらに年金から上乘せされてしまう、これでは孤立化を生じてしまうことが明らかです。簡素化に関する部分が今回問題になってきてしまうのではないのでしょうか。

(議長)

先程事務局の方に今後の日程を聞きましたところ、今日皆様からのご意見を聞いて、不完全な部分がありますが、いただきましたご意見を事務局に反映させていただくということで、承認いただけますでしょうか。ただ今議件となっております諮問事項、令和7年度鴨川市国民健康保険税の税率改正案について諮問のとおりで異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」と発言するものあり)

それでは異議なしと認め、諮問のとおり答申することとします。ありがとうございました。

令和7年度鴨川市国民健康保険特別会計当初予算案について

引き続きまして諮問事項、令和7年度鴨川市国民健康保険特別会計当初予算案について、事務局より説明願います。市民生活課、山口課長。

(山口市民生活課長の説明)

(議長)

ありがとうございました。それでは皆様からのご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

(「ありません」とは発言するものあり)

それではただいま議件となっております諮問事項、令和7年度鴨川市国民健康保険特別会計当初予算案について、諮問のとおり異議がないということによろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言するものあり)

ありがとうございました。異議なしと認め諮問のとおり答申することとします。

なお現在不確定な県支出金に調整が必要なため、微細な数値の設定については事務局の方に一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。異議なしと認め取り扱います。それでは最後になりますが、せっかくの機会ですので事務局から委員の皆様からなにかございますか。

(「ありません」と発言するものあり)

(議 長)

それでは特になければ、本日の議件は全て終了いたしましたので議長の職を解かせていただきます。長時間にわたり申し訳ありませんでした。ご協力ありがとうございました。

4 閉会

(半田係長)

ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第2回国民健康保険運営協議会を閉会いたします。長時間にわたるご審議ありがとうございました。

令和7年1月23日

鴨川市国民健康保険運営協議会

会長 酒井 龍一